

山座同定と初登頂の疑問

2023/1/16 井上達男

未踏の山に挑戦した登山隊は何らかの方法でその報告を行い公開している。報告書が発行されると登頂の証は容易に追認することができる。昨今ではライトエクスペディションの場合報告に Net が活用され、Home Page, Blog, SNS などでも発表される事が多い。私は遠征隊を派遣した関係で、Kangri Garpo 山群と Nyainqentanglha 山群の登山記録と山座同定に注力している。登山対象を選ぶ登山者にとってピークを同定することと未踏か既踏かは大事な関心ごとである。

2016年に「崗日嘎布山群山群および念青唐古拉西山群を探る」として「山と人21号」を発行したが、その編集作業においていくつかの疑問が生じた。その疑義をいくつか取り上げて検証してみた。

1. 羊八井 Yangpachen 南の Bartse Ri 初登頂について

この山群の最高峰は Bartse Ri 6235m とされている。AAJ (American Alpine Journal) の Web 記事がある。Beu-tse (6,270m) または Da Kangri としてイギリス隊が2003年に北面から北峰(主峰)に登頂している。記事の記述から Bartse Ri のことであるのは間違いない。

一方、ダカンリ(打杠日峰)として2010年に日本未踏峰倶楽部隊が登頂している。彼らは初登頂としているが、上記のように2003年にすでに登頂されているので、日本隊は初登頂ではないと思われる。

以下に AAJ の記事を転載する。

<http://publications.americanalpineclub.org/articles/12200442900/Asia-Tibet-Nyachen-Thanglha-Nyainqentanglha-Range-Beu-tse-First-Ascent>

+++++

ASIA, TIBET, NYACHEN THANGLHA (NYAINQENTANGLHA) RANGE,

BEU-TSE, FIRST ASCENT

Publication Year: 2004.

Beu-tse, first ascent. In September Derek Buckle, Martin Scott, Alasdair Scott, and I made the first ascent of Beu-tse (6,270m), which lies in Tolung Dechen County of Central Tibet, ca 16km south of the town of Yangpachen. The peak forms one of a small glaciated range of mountains running in a north-south direction and is the highest point of the extensive highland area bounded by the Yangpachen Valley to the north and west, the Yarlung Tsangpo to the south, and the Tolung valley to the east. The sharp pyramids of the two main summits are well seen from the Shigatse road near Yangpachen Monastery, as is the spectacular hanging glacier that falls between them to the west.

The only published photo is titled **Da Kangri**, and hence we were the British Da Kangri Expedition.

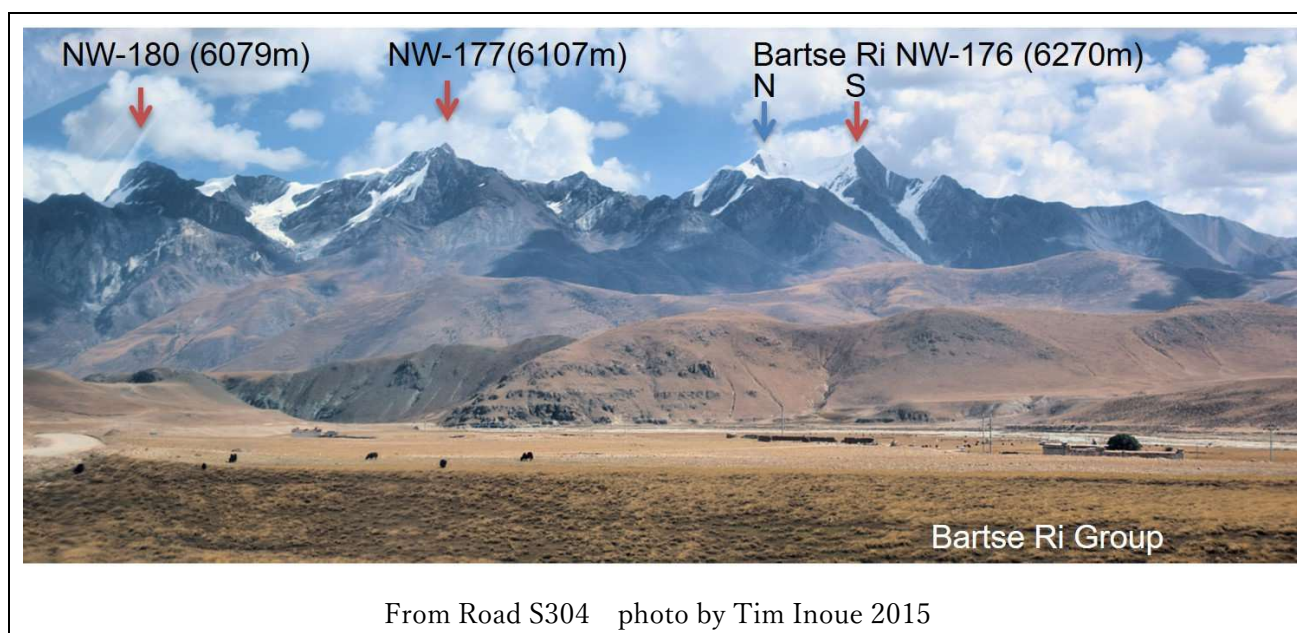
However, the locals were adamant that our peak was in fact **Beu-tse** (Calf Peak) and that **Da Kangri**, also known as **Da-tse** (Horse Peak), lay elsewhere to the southwest. As is common in Tibet, their name applies to the group as a whole rather than any one peak. The range is close to the Western Nyanchen Tanglha, which stretches in a great arc along the opposite side of the Yangpachen Valley culminating to the south in Jomo Kangri (**Qungmo** 7,048m) and to the north in Nyanchen Tanglha itself (7,162m).

This is a well populated and accessible area, and Yangpachen can be reached from Lhasa in less than two hours by the main northern road. We arrived in Lhasa on September 9 and on the 11th drove to base camp at 4,645m in a high valley to the west of the mountain, close to the five houses of Nya. One choice of route was to climb steeply up the end of the long west ridge before following it to a high snow saddle and then turning south to reach the summit pyramid. In retrospect this would have been easiest, but instead we entered the hanging valley that ran along the northern side of the ridge, making our first camp by the entrance at 5,185m. We then climbed easily upward through moraines to the head of the valley, where we placed a second camp at 5,641m in the shelter of a steep rocky outcrop at the top of the initial snow slopes. A long snow slope then led steeply upward to the 6,000m saddle forming the end of the west ridge.

After a day spent acclimatizing, followed by two nights of snowfall, we eventually set off in pairs at 4:50 a.m. on September 21. The snow was in perfect condition, but the slope steepened rapidly from 45° to 60° -70° in the final stages. It was disorientating to haul up onto the flat expanses of a saddle, but the summit pyramid was not the push-over we expected, being steep, exposed, and heavily corniced. At 11:20 a.m. we reached the summit, though no-one went near the highest point of cornice, six or seven meters above our little snow ledges. It took until 7:30 p.m. to down-climb our route, which those who knew rated at D+/TD-.

John Town, U.K., Alpine Club

+++++





続いて Bartse Ri の初登頂について検証したい。日本山岳会の Home Page にダカンリの登山報告が白木貞次氏個人の記録として掲載されている。氏は登頂を途中で断念されているが他の member が多数登頂されている。また、ルーズ峰に登頂された太田正秀氏もダカンリ登山隊に参加されている。

Home Page <http://www.ccn3.aitai.ne.jp/~sykt5022/10.9.2tibeto.html>

JAC 岐阜 <http://www.ccn3.aitai.ne.jp/~sykt5022/sub6.html>

<Home Page の記事>

+++++

チベットの未踏峰 打杠日峰（ダカンリ峰） 6, 247m

白木貞次

2010年9月2日から19日まで、私にとっては2回目のチベットの未踏峰登山に出発する事になった。昨年から誘われていたのだが、ほかの山への計画もあり、なかなか参加に踏み切れなかった。

6月に入って参加する事に決め、それから準備が始まった。ほとんどの隊員が決まっていた中へ、私が割り込むかたちになった。

今回の山ダカンリ峰は、チベットの首都ラサ市から北へ約100Kmの羊八井から、左の谷筋へ未舗装の路を約20km奥に入った場所に位置し、双耳峰で右が北峰左が本峰で在るが、我々のベースキャンプ(BC)からは、本峰は見えない。

福岡空港で全隊員が合流して出発し、上海で乗り継ぎ成都で一泊、次の日の早朝の飛行機でラサ空港に到着、100km離れたラサ市内のヒマラヤホテルで3泊する。ラサ市は標高3650mの為、この3日間で市内観光や近くの丘に登るなどして、高度順応をする。又登山用の装備を点検、食料の買出しなどを行い登山に備える。

ラサ滞在3日目の朝(9月6日)ランクル4台とトラック1台で、BCに向かう。BCは放牧地(標高4700m)の平坦な場所に決まる。テントを張り偵察に出る、本峰の左の谷を標高約5000mの丘まで登る。夕食は松茸が沢山入ったご飯と味噌汁だ。

明けて7日は、中国軍の砲撃訓練の為、危険なので我々は、少し下流の安全な場所に15時過ぎまで避難させられる。

8日 昨夜は雨が降ったが上部は雪だ、左の谷へのルートを検査に入る。約5100mの所にモレーン帯に出来た大きな草原があり、ここをABC(アドバンテージ、ベースキャンプ) 予定地と決める。ここから谷筋を、モレーン帯を幾つも超えて約5300m付近までの偵察の結果、正面の尾根や、左の壁を右の尾根に出るコースも、いずれも厳しく、雪崩れの心配をしなければならず、このコースは難しそうだ。雪も降り出し視界も悪くなり、今日の偵察は終わりにする。

9日 今日は朝からBCのテントを撤収して、馬6頭で荷揚げする。15時30分ABCの設営(約5100m)終了。ABCへ登る途中では雨も降り出す天気、まだ天気は安定しない。荷物は馬3往復し、夜遅くまでかかる。

10日 下では10~12日まで、又中国軍の砲撃演習が行われ立ち入り禁止との事。今日は寒いがやっと晴れてきて、周囲の山々が良く見える。我々の行動は、右の尾根を登り、右の方にトラバース気味に登るルートを取り、ルート工作隊と荷上げ隊に分かれて行動する、ポーターが追いかけて来て、今日中にABCを撤収して下山するようとの伝言を持ってきた。我々は標高約5300m付近に荷物をデポして下ることになる。中国軍の砲撃訓練があるが、我々は山の上にいるから良いと思っていたが、全員テントをたたんで下山することになる。12時ごろには、頭の上で砲弾の破裂する音が、打ち上げ花火のように大きな音を出して鳴る。15時30分 まだ馬が来ないが、荷物を一個所にまとめて置き、我々はのんびりと放牧民の家まで下る。16時30分に到着、家の中に入りくつろぐが、こん

な事をしていると、何だか我々の登山が心配になってきた。荷物は暗くならなければ来ないようだ。一昨日にTさん今日はOさんが、体調不良でラサへ下っていく。ここは標高4600mあり、上手く高度順応が出来なかったようだ。

11日 今日朝から良く晴れて、遠くの山が良く見える。7200mのニンチンタンラ峰が谷の向こうに、はっきりと見えている。やっと天気が良くなったのに、足止めとはなんと残念な事だ。10時から15時まで放牧小屋の敷地から外へ出るなど言われている。午前中10時少し前に、中国の軍人が2人来て、我々の行動を監視しに来て、12時過ぎに引き上げてゆく。ここの放牧民の家には、電気や電話それにカラーテレビも備えてある、これも中国の影響のようだ。

12日 曇り 今日足止め、午前中雑談で過ごし、午後は共同装備の点検、荷揚げの準備をし、軍の訓練が済む15時過ぎから軽食を取り、ABCに向かって16時出発全員18時に着き、テント3張りを張る。私は途中ハプニングがあり、荷物を取りに下ることとなり、30分ぐらい送れて到着する。

13日 ポーター3人の到着を待って8時45分出発、約2時間で先日のデポ時点に着き、デポの荷物を分担してC1予定地の尾根に12時10分到着、先発隊5人はC1上部のルート工作に取り組み、フィックス工作を行い17時30分ごろC1に帰る。後発3人でC1の設営をピッケル、スコップ等で斜面を整地し、3張りのテントを16時ごろまでに設営する。先発隊の話では、上部は大変厳しい場所もあるが、頂上までのルートは十分在るとの事だ。他の3人の人は、フィックスロープを張った上部のCOL約5700mまで登り、その後ABCへ下る。18時30分ごろから雷が鳴り、雪も降ってくる。

14日 昨夜は雪とあられも降り、今朝は曇っているが寒い朝だ、朝食は各テント毎に行い、味噌汁に餅で取る、8時10分ごろから順次頂上に向かって出発する、私達は20分遅れで、4パーター8人で最後に出発する。ガレ場を15分登り、アイゼンを付ける。雪は柔らかく少しもぐる。フィックスロープを20分で登りCOLに出る。ここで福井のTさんとザイルをむすぶ。雪の尾根をコンテナンスで1時間あまりで岩稜の下に着き、ここでMさんがリタイヤする。岩稜を落石に注意し、スリッにも気お付けて脆い岩場を乗り越す。雪壁や雪稜をスタカットで登るが、私の呼吸の乱れがなかなか戻らなくなり、今までの登りの状態を考えると、これ以上登って帰路を安全に帰る事が出来るかを考えた時、私の行動は此処までにするのが良いのではないかと判断し、此処で登るのを断念する事にした。此処は標高約6000Mぐらいの場所で、氷河の切れ目にブリッジのかかっている所で、頂上が正面に見える場所にあり、皆の行動が手に撮るように見えた。17時ごろから3パーターが順次頂上に到着するのを写真に納め、皆の帰りを待つ。あまり良い天気でもなく、時々雲で頂上は隠れる、身体が段々冷えてきて、待つ時間はとっても長かった。5時間以上も待っていたので、帰りは雪が腐っていて滑り、大変辛い歩みとなる。途中から暗くなり、ヘッドランプの使用となり、22時30分C1に全員帰着した。

15日 昨夜は少し雪が降り風も強く吹いていた、9時30分過ぎC1を撤収し、ポーターが3人来るのを待って、彼らに共同装備を託し、我々は個人装備持って下山を始める。12時ABCに着く、ABCを撤収し馬2頭に荷物を預け、14時30分BCに到着、留守隊に歓迎の出迎えを受ける。4人の人は配車の都合で、今日中にラサに下ることとなり、早々に下山して行く。我々はBCに到着後濡れ物を干すが、16時ごろ雷が鳴り出し雨もぽつぽつしてくるが、それ以上ひどくは成らなかった。

16日 9時30分 BCを撤収して帰路に着く、10時30分羊八井で休憩、少し寒さを感じる。車は国道に出て一路ラサに向かう。12時過ぎラサのホテルヒマラヤに着き、昨日一足早く帰った4人と合流し昼食を取る。15時から共同装備を整備する。19時よりホテルの前の食堂で夕食、その後各自の部屋でくつろぐ。

17日 市内の観光し、それぞれにくつろぐ。夕食はホテルで晩餐会、ラサの旅行社の人達とお別れ会が行われた。

18日 8時ホテルを出発してラサ空港へ、11時に成都に向かってフライト、13時15分成都着、ホテルで体調を崩して早く下山していた2人と合流、やっと全員が集合できた。夕方全員でお別れの夕食を、市内のレストランで行なわれ、ホテルに帰ってから私の相部屋のYさん、それにOさんと遅くまで山の話をする。

19日 早朝のフライトなので5時にホテルを出るが、フライトが少し遅れているようで8時ごろ搭乗し、上海11時15分着福岡行きのフライトは、我々の到着を待って12時25分に動き出す、15時10分福岡に着く。荷物を受け取り今回の遠征の皆さん方とお別れ、私は国内線乗り場で18時30分の飛行機で中部空港に19時45分着く。名鉄、JRに乗り継ぎ帰路に着いた。

今回のチベット遠征は、丁度登山活動に入った時期に、中国軍の砲撃演習に遭い、我々の足を止められ、登頂のチャンスが1回しか取れなかった、時間的に余裕があれば、全員が登る事が出来たのではないかと思はれる。私は悔いが無かったとは言えないが、それなりの満足の出来た登山だったと思っている。

最後になりましたが、私を側でご支援いただいた、多くの人達に厚く感謝申し上げます。有難う御座いました。

遠征隊員 大分1人 福岡2人 徳島1人 滋賀1人 福井2人 愛知1人 岐阜5人 長野県1人の 合計14人でした。

参考資料 飛騨山岳会木下会員のブログ参照

+++++

2. キチ(キーツ)、ルチ(ルーツ)山塊 Kyizi- Luzi .Group

次に念青唐古拉西山群の Luzi 峰について山座同定と初登頂について検証したい。以下に示す記述は神戸大学山岳会発行の「山と人 21号」"崗日嘎布山群山群および念青唐古拉西山群を探る"の P96-99 の抜粋である。登山隊は2011年9月、日本未踏峰倶楽部の太田氏がルーズ峰登攀を試みている。その登頂記録から登ったピークの検証をしたい。

「ルーズ峰」として blog 記事がある:

<https://blog.goo.ne.jp/elderbp/e/a6794999bb0f181b03bdd9b418b5dc55>

< 「山と人 21号」の記事抜粋 >

この山塊については少し混乱がみられる。まずは山名と位置について。ポーランドの Janusz Majer 氏と Jerzy Wala 氏共著の念青唐古拉西山群研究レポート 2010 年「Nyainqentanglha-West Mountains」によると Map-8 に示す NW-107(6,145m)をルチ峰(Luzi)としている。次に 2011 年にルーズ峰(ルチ峰 6,202m)に登頂したとインターネットなどに発表している日本未踏峰倶楽部隊によると Map-8 の Luzi 峰(NW-159)の3つのピークの東端のピークを主峰として、初登頂したと主張している。初登頂の真偽については後述するとして、チベット登山学校の関係者は毎年のように訓練やフェスティバルで登頂しているドーム型のピーク NW-109(6,150m) をキチ峰(Kyizi 6,206m)とし、東の三本槍型の尖峰をルチ峰(Luzi)と認識している。また Majer 氏らのレポートでは NW-159 を Kyizi (6,206m)としている。

We have brought up a few questions about this mountain group. The first question is names and locations. Mr. Janusz Majer and Mr. Jerzy Wala issued a study report "Nyainqentanglha-West Mountains 2010". They put the name of Luzi on the peak NW-107 (6,145m) in the Map-8 in their report. Mr. Ohta (Japan Unclimbed Peak Club) described in his internet report that he made the first ascent of Luzi (Luzu 6,206m) in September 2011. We analyzed his sentences and pictures of climbing and then we concluded that he had reached the third highest peak (East end peak) out of 3 pinnacles. He believes Luzi location is NW-159 position in the Map-8.

CTMA and members of "Tibet Mountaineering School and Team" has often climbed the dome shape peak NW-109 as Kyizi (6150m). They said NW-159 should be Luzi (6,206m). Mr. Ciren Danta who is an officer of Tibet Sports Department and a professional climber said that NW-109 is Kyizi (6,150m) and NW-159 is Luzi (6,206m). We took the identification by Danta in this report.

Mr. Majer and Mr. Wala put the name of Kyizi (6,206m) on NW-109. ,

本稿では合同登山で親交の深いチベット登山学校から中国地質大学(武漢)に進学しチョモランマに複数回登頂経験もある次仁旦塔(ダント)氏へ確認をお願いした結果を採用し、東の三本槍を Luzi(6,206m)、西のドームを Kyizi(6,150m)とした。ダント氏自身も 2014 年 5 月、キチ峰に登頂している。

この二つのピークの標高についてはタリ峰から撮った写真、Fig-2)-11、12 によると Luzi の方が明らかに高いので Luzi を 6,206m とした。この結論は従来の同定とは異なるので異議がでるやかもしれない。議論の対象となろう。

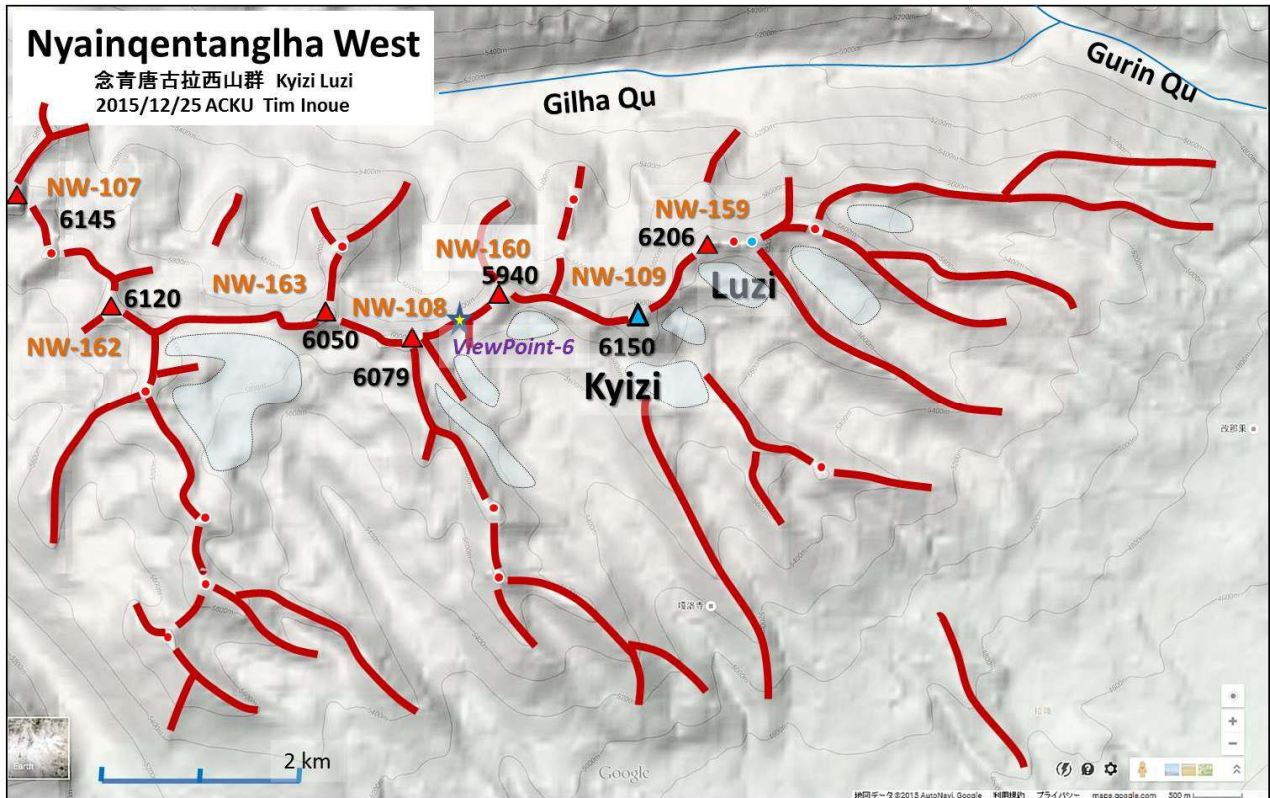
山名の意味はチベット語で"Zi"は動物を扱う人で発音は「チまたはツ」に近い。"Kyi"は「キ」または「キー」と延ばすよう聞こえるが、意味は「犬」、"Lu"は「ル」と発音し、意味は「羊」である。したがって Kyizi は「犬使い」、Luzi は「羊飼」を意味する。

念青唐古拉西山群の山には動物の名前がつけられるのが普通だという。例えば Pa は「パ」と聞こえ、ブタか猪を意味する。Ta は「タ」で意味は虎(チベットに虎は居ない、雪豹と解釈すべき。虎と通訳してくれたのは誤訳と思われる)を意味する。

従ってバダ谷は漢字表記で巴達曲、ピンインで Bada Qu となる。「バダ」と読んでしまうが、チベット語からそのまま

英語表記する Pata の方が現地語に近い。

The name of Kyizi and Luzi comes from “Ky = dog” and “Lu = sheep” with “Zi = person who controls animal”. Kyizi means “dog trainer” and Luzi means “shepherd”. Tibetan in this district often put animal name on mountain. In case of Bada Ri, basically local people pronounce “Pata Ri”. Chinese put Chinese character and Pinyin “Bada”. “Pa” means “pig or wild boar and “Ta” should mean “snow leopard”. Our interpreter explained “Ta” is “tiger”, but there is no tiger in the mountain. We thought it was a translation mistake. “Ta Ri” means “Snow Leopard Mountain”.



Map-8 キチ(キーツ)、ルチ(ルーズ)山塊と View Point-6
Kyizi, Luzi group and View Point-6

次に二つのピークの登頂に関する疑問である。Kyizi については何度も登られているので既登峰であることは明白だが、初登頂は 1995 年の大阪隊によるものと思われる。確認のためにチベット登山協会にも登山学校にも問い合わせたが不明のままである。1997 年 8 月 16 日、長野県山岳連盟が西藏登山協会と合同でキズ峰(6,079m)に登頂している。登頂時に登山ルートとなった東主稜線を見下ろした写真と同等の写真を前述のダンタ氏が撮影しているので背後のルーズ峰と合わせてキズ=Kyizi およびルーズ=Luzi であることを確認できた。

Luzi についてはルーズ峰としてインターネットに記録があるが、2011 年 9 月 13 日に日本未踏峰倶楽部隊の太田正秀氏らが Fig-2)-19 および 21 に示したルートで三本槍の東端ピークに登頂している。氏はルーズ I 峰 6,206m に初登頂したとしているが、確かに南面からの写真 Fig-2)-21 を見る限りは登頂したピークが一番高いように見える。

しかし、写真 Fig-2)-20、22、23 を見ると三本槍の西端ピークが一番高い。実際、Fig-2)-23 を撮影した Bada .Ridge の 5,500m 地点から観察した結果も高い順に西端ピーク、中央ピーク、東端ピークとなっていた。したがって Luzi 6,206m 主峰は未踏のまま残されている。

Question about the first ascent of Kyizi and Luzi

We have no question that Kyizi was climbed many times. But, we could not get any evidence of the first ascent of Kyizi. According to the Table-2, in 1995, Japanese party climbed Kyizi. We asked CTMA and Tibet Mountaineering School, but we did not get any good answer. We have one record that Nagano Prefecture Mountaineering Association had a Joint expedition with CTMA on August 16th, 1997. They had reported they climbed Kizu (Kyizi 6,079m). A picture in that report targeted the climbing route from the top down to the East Ridge appears 3-pinnacles of Luzu = Luzi (6,206m). We got a very similar picture that Danta took it in May 2010. It is obvious that Nagano team climbed Kyizi comparing with those two pictures.



Fig-2)-19 Kyizi 6,150m (left) & Luzi 6,206m
The line shows climbing route to the top of Luzi-III
The main Peak of Luzi is still unclimbed.

Referring to the internet, Mr. Masahide Ohta (Japan Unclimbed Peak Club) described that he made the first ascent of Luzu I (6,206m) on September 13th, 2011. According to his climbing explanation, we could follow his climbing line as shown in Fig-2)-19 and Fig-2)-21. From the south foot of this mountain, the East-end peak-III looks the highest peak. We have good pictures, Fig-2)-20, 22 and 23 captured 3-pinnacles clearly. As our conclusion, the West end peak is the highest. Mr. Ohta climbed Luzi III (6,150m).

The main peak of Luzi is still unclimbed.

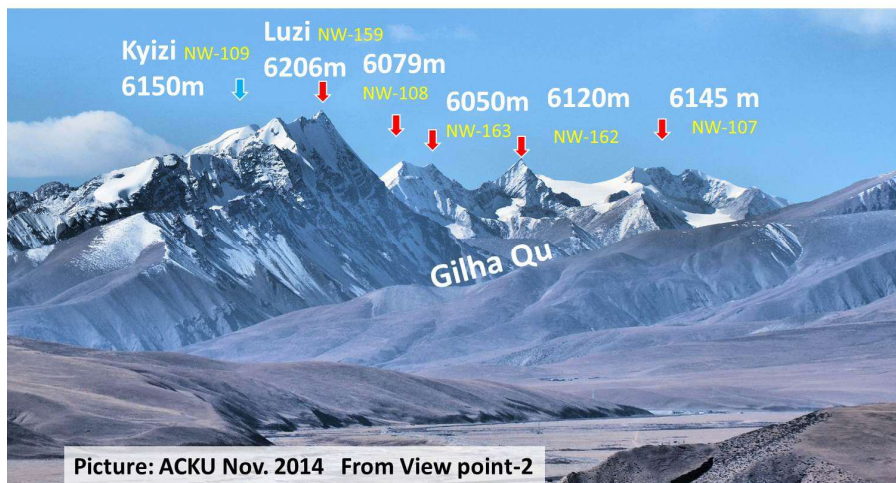


Fig-2)-20 キチ、ルチ山塊; View Point-2 より
Luzi and Kyizi Group from View Point-2

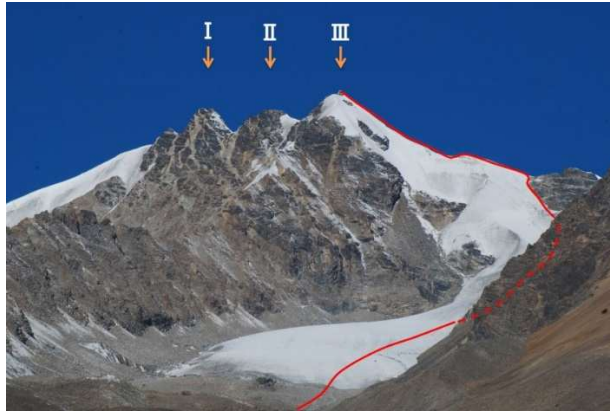


Fig-2)-21 Luzi , Climbed route , in 2011, from Yangbajain (South face)
 第三峰: 2011年9月13日、日本未踏峰倶楽部隊が登頂。本峰は未踏
 Luzi- I and II are still unclimbed



Fig-2)-22 3-peaks of Luzi
 From Natsu village (East face)



Fig-2)-23 3-peaks of Luzi
 From Bada Ridge 5,500m
 (North-east face)